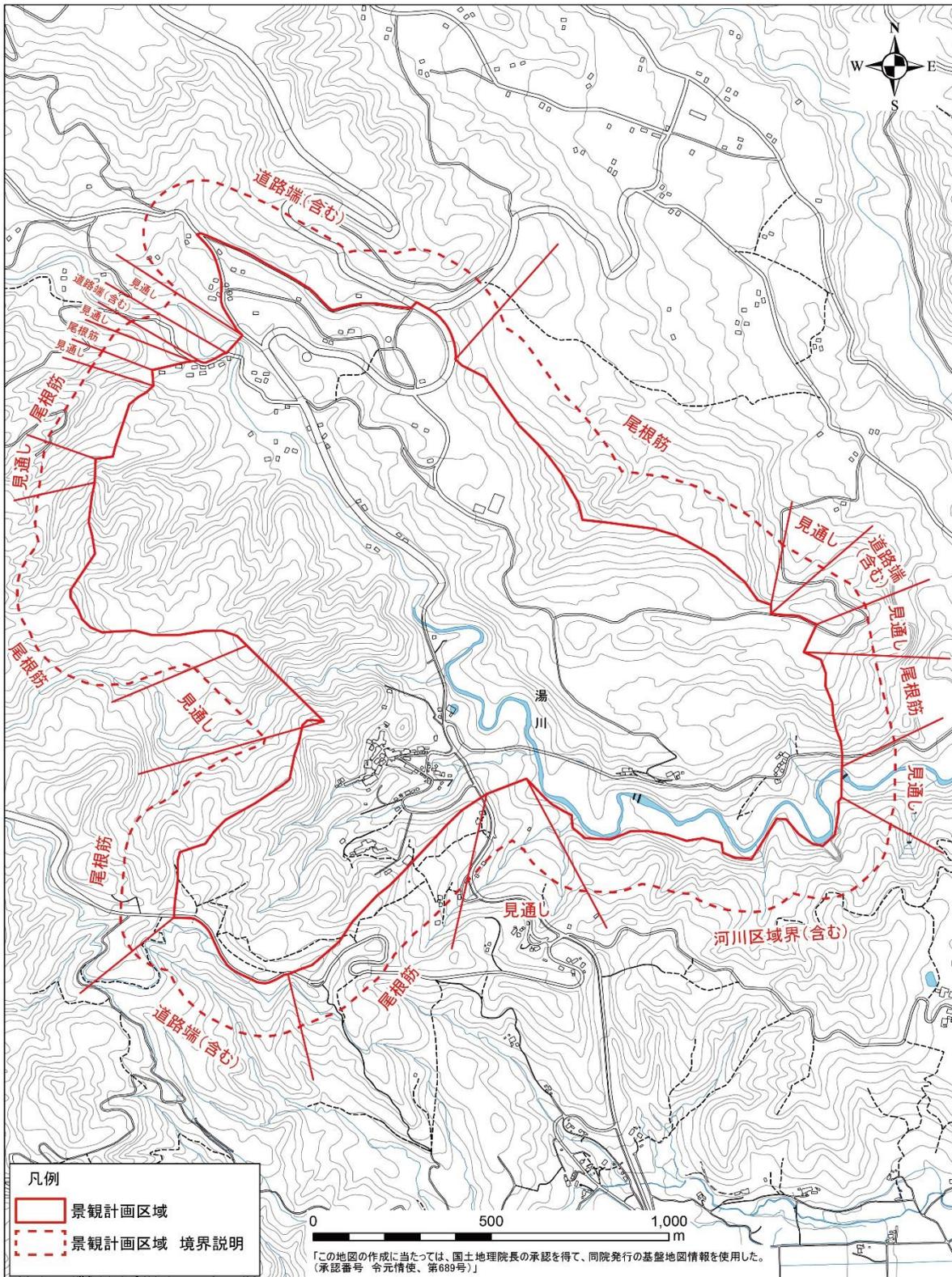


### 3 鎌先温泉地区

#### (1) 景観計画区域

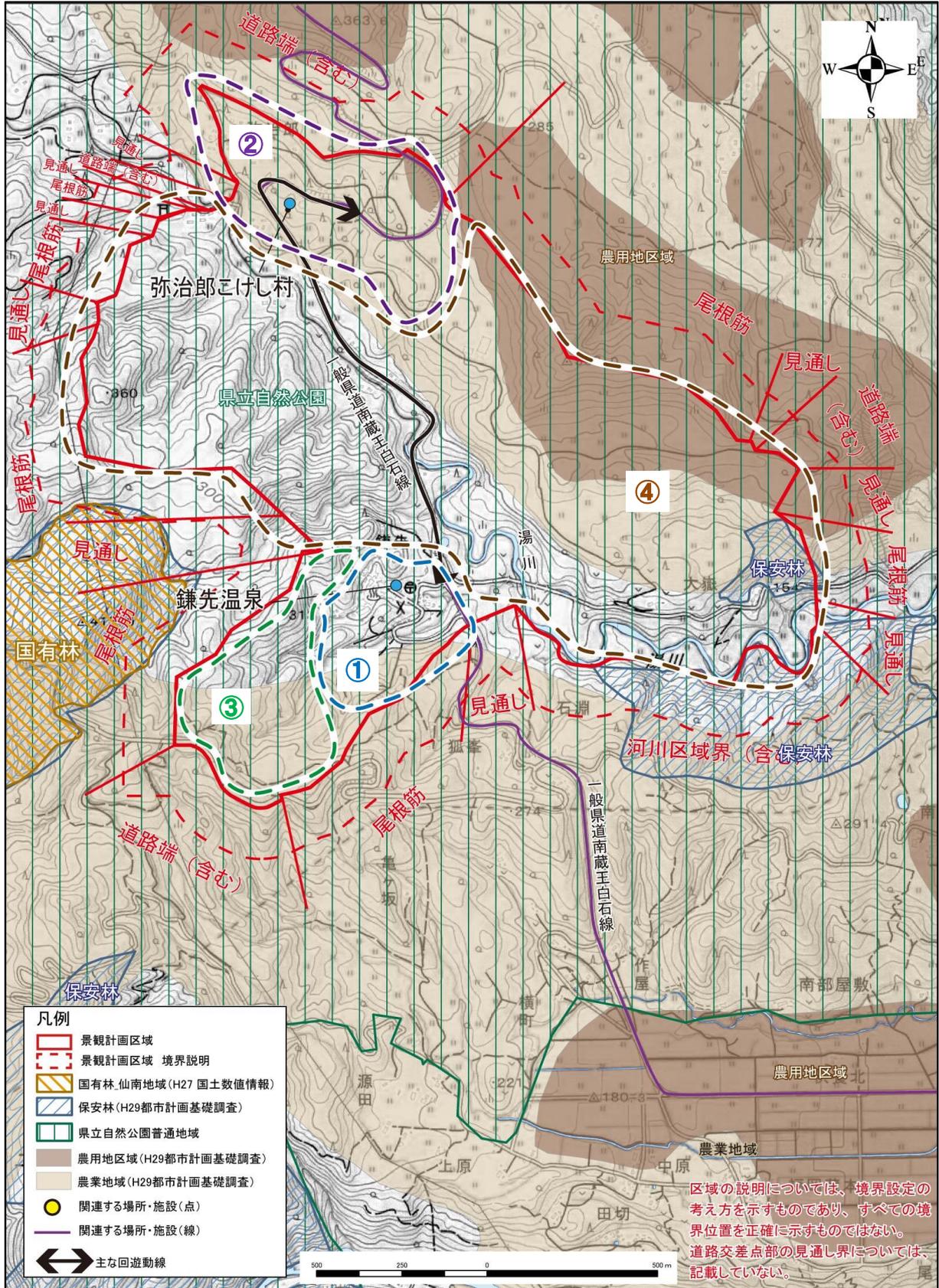
鎌先温泉地区の区域図を以下に示します。



## 【区域の考え方】

鎌先温泉地区の区域は、以下の考え方を踏まえて設定しました。

当該区域を指定する目的
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 県立自然公園に指定されていることを踏まえ、自然公園の環境の保全と湯治場由来の営みを活かした景観まちづくりのきっかけとして、景観の保全・形成を図ることを目的とする。</li><li>・ 鎌先温泉及びその周辺において、人と地域資源がふれあう交流の拠点形成を図ることを目的に、景観計画区域を指定する。</li></ul>
地区内で見られる景観（景観の概況）
<p>■仙南地域らしさを象徴する景観</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 蔵王山麓で古くから湯治場として栄えた温泉地で、山間の木々の中、路地と旅館が一体となり、かつての湯治場の面影を残す趣深さを感じさせる景観が見られる。</li><li>・ 土産物として親しまれているこけし製造の文化の継承による木地師集落の面影を残す集落の景観が見られる。</li></ul> <p>■地区固有の景観</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 一般県道南蔵王白石線の沿道からは、温泉街の東側を流れる湯川の流れにより形成された谷地形による木々に囲まれた圍繞景観が見られる。</li></ul>
区域設定の考え方
<p>■基本的な考え方</p> <p>まとまりのある温泉街を形成されている鎌先温泉を中心に、川と木々が織り成す落ち着いた景観と温泉街の賑わいと農村集落の穏やかな景観が調和した景観形成を図るとともに、レクリエーション施設による一体的な景観の保全・形成を目指した区域を設定する。</p> <p>■個別の考え方（丸数字は、次ページの図中の丸数字に対応）</p> <p>①温泉街</p> <p>複数の温泉旅館により、木々に囲まれた情緒のある趣深さを感じさせる温泉街において、まとまりのある景観形成を図るため、区域に含めた。</p> <p>②木地師集落の面影を残す集落と伝承施設</p> <p>かつての木地師集落は、水田を中心とした農地と集落内の建築物による穏やかな農村集落景観を形成しており、こけし文化を活用し、人と地域資源がふれあう交流の拠点形成を図るために、区域に含めた。</p> <p>③温泉街西側の樹林地</p> <p>温泉街の背景となる緑の景観として保全を図る必要があるため、区域に含めた。</p> <p>④湯川沿いの樹林地</p> <p>温泉街と伝承施設である弥治郎こけし村を結ぶ一般県道南蔵王白石線において、沿道の宅地利用における景観への配慮を求めるとともに、湯川沿いの谷地形による樹林地を一体的に保全できるよう区域を設定することにより、温泉街、木地師集落と一体的に景観形成を図るため、区域に含めた。</p>



▲区域設定検討図

## (2) 景観形成方針

鎌先温泉地区における景観形成方針を以下に示します。

### ■ 自然景観の保全

- ・湯川の環境を保全するとともに、周囲に広がる樹林地が作り出す豊かな自然景観の保全を図る。
- ・地区へのアクセス道路である県道等から見渡される山々が作り出す美しい自然景観の保全を図る。

### ■ 農の営み等とともにある景観の継承

- ・木地師集落の面影を残す農村集落では、農地と農家住宅が一体となった山間の農村景観の保全・継承を図る。

### ■ 個性を活かす景観の創出

- ・温泉街では、旅館等の建物群が作り出す通り景観の創出を図るとともに、周囲の木々と調和した山間の静かな環境を保全し、落ち着きとまとまりのある温泉街の景観形成を図る。

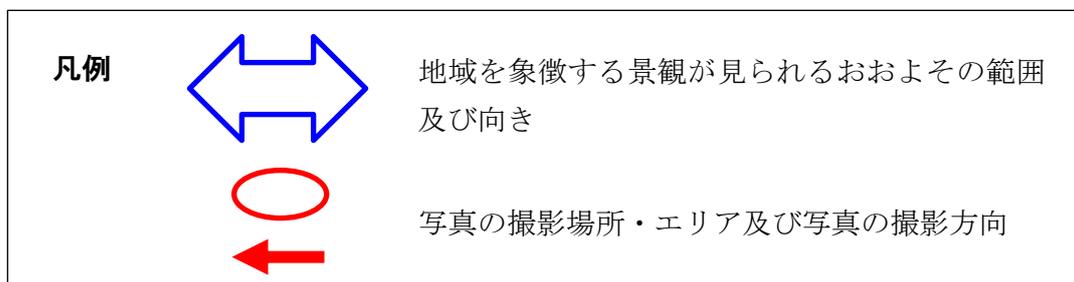
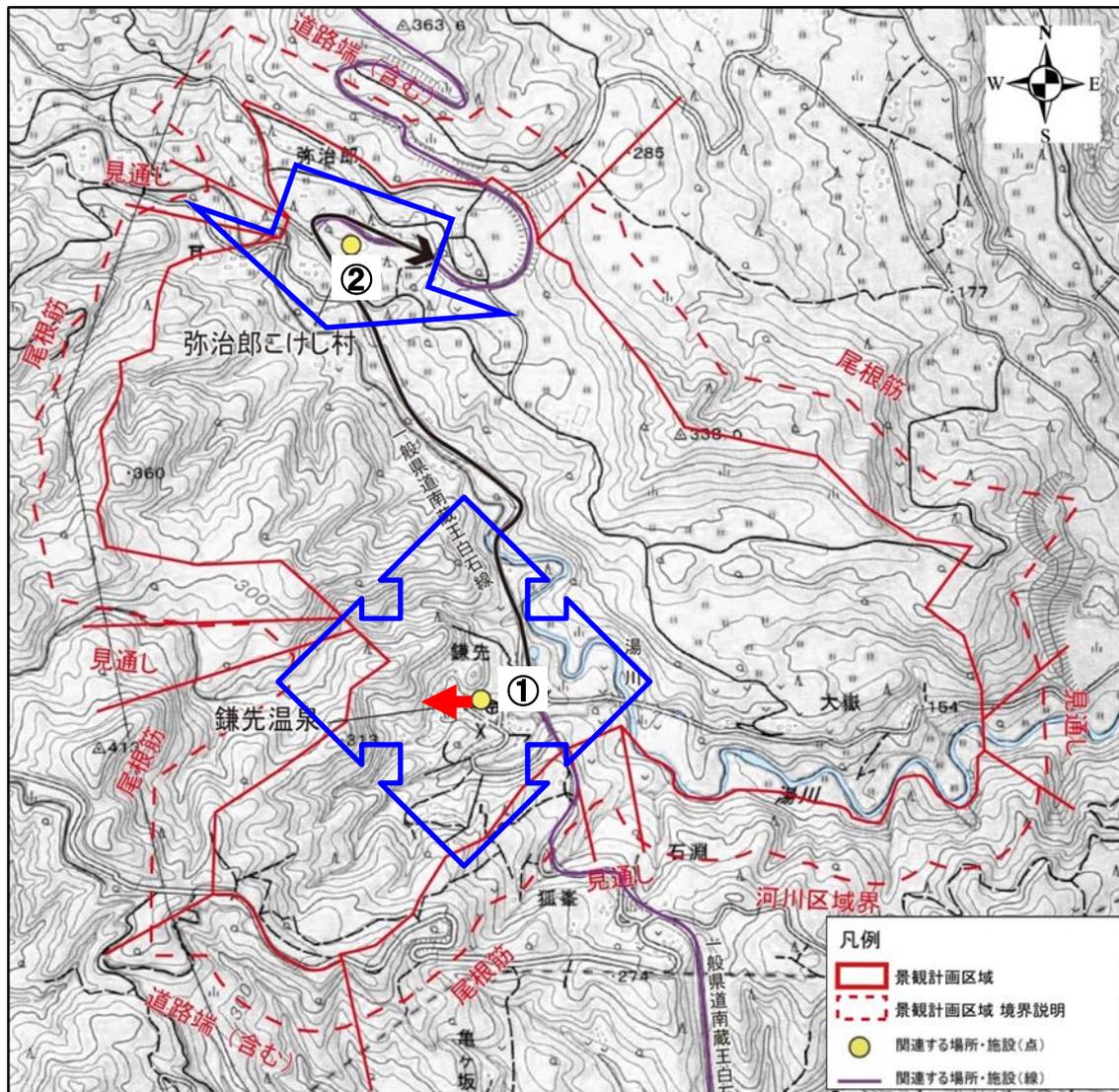
### (3) 景観形成基準

鎌先温泉地区における景観形成基準を以下に示します。

#### ▼景観形成基準

行為	項目	景観形成基準 ※■: 地域の特徴を踏まえた基準
建築物 ・工作物	配置・位置	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地形の起伏になじむ配置とする。</li> <li>■ 温泉街では、周囲との連続性に配慮した配置とする。</li> <li>□ その他のエリアでは、周囲の環境に配慮したゆとりある配置とする。</li> <li>□ 大規模な施設となる場合には、オープンスペースを有効に配置し、潤いある景観の形成に努める。</li> </ul>
	高さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 周囲の自然景観から突出しないよう配慮し、周囲と調和した高さとする。</li> </ul>
	形態・意匠	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 温泉街では、歴史ある旅館等の建造物による街並みと調和した、落ち着いた形態・意匠となるよう配慮する。</li> <li>■ その他のエリアでは、周囲の里山や田園集落と調和した形態・意匠となるよう配慮する。</li> <li>□ 大規模な建築物等では、長大な壁面を避け、周囲に与える圧迫感を軽減に努めた形態・意匠となるよう配慮する。</li> </ul>
	色彩・素材	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 温泉街では、既存の建造物と調和するよう、外壁や屋根における素材や色彩に配慮する。</li> <li>■ その他のエリアでは、既存の集落で多く見られる建造物と調和するよう、外壁や屋根における素材や色彩に配慮する。</li> <li>□ 外壁の基調となる色彩は、高彩度の色は避け、色彩を組み合わせる場合には、全体としてのトーンを合わせた統一感のある配色とする。</li> <li>□ 屋根の色彩は、建物との調和に配慮し、周囲から突出しないものとする。</li> </ul>
	設備類	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 屋上設備、屋外設備は、建築物との一体化や道路等の公共空間から見えない位置に配置する。やむを得ない場合には、通りからの見通しに対する遮へい等を行い、周囲の景観に影響を与えないよう配慮する。</li> </ul>
	外構・緑化等	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域の植生に配慮した緑化に努める。</li> <li>□ 駐車場を設ける場合には、出入口を最小限に整理し、道路境界部や敷地内における植樹等、周囲に閑散とした印象とならないよう配慮する。</li> </ul>
開発行為・土地の形質の変更・木竹の植栽伐採	周辺への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 周囲の自然環境、植生等に配慮する。</li> </ul>
	造成等	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 既存の地形を活かした造成に努め、切土・盛土は最小限とする。</li> <li>□ 法面や擁壁等を設ける場合には、周囲の環境との調和に配慮した素材や工法とする。</li> </ul>
	既存樹木・樹林等の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 集落内や通り沿い等で地域の景観を印象づける高木等の既存樹木は、可能な限り保全するよう努める。</li> <li>□ 植樹をする際は、周囲の自然植生に配慮した樹種の選択に努める。</li> <li>□ 伐採後は、自然の植生の再生に向けた措置を行うよう努める。</li> </ul>

(参考) 区域で見られる景観 (丸数字は、次ページの表中の丸数字に対応)



区域で見られる景観	説明
 <p data-bbox="320 663 735 696">①鎌先温泉街の様子（図内赤矢印）</p>	<p data-bbox="927 248 1070 282">●<b>鎌先温泉</b></p> <p data-bbox="927 297 1401 618">山あいひっそりと佇む鎌先温泉は、観光地としてのみならず古くから湯治場として人々に親しまれた温泉街である。四方を山林に囲まれた自然豊かな中に、温泉宿が立ち並んだひとまとまりの景観が形成されている。</p>
 <p data-bbox="397 1149 614 1182">②弥治郎こけし村</p>	<p data-bbox="927 730 1145 763">●<b>弥治郎こけし村</b></p> <p data-bbox="927 779 1401 1048">弥治郎こけし村は、鎌先温泉の北側に位置し、かつての木地師集落とこけしの文化を今に伝える施設である。こけしの初挽きは白石市の年始行事として、弥治郎こけし村の木地師によって行われる。</p> <p data-bbox="927 1064 1401 1243">弥治郎こけし村の周囲には、水田や家屋が点在し、木地師たちが開墾して暮らしてきた集落の文化が残る農村集落の景観が形成されている。</p>